今週の富大生

Weekly TOMIDAISEI

第76号
芸術文化学部
芸術文化学科
2年
福井県立大野高等学校
（福井県）

富山マラソンタオル制作「やってよかった」

放課後に高校の先生と特訓

幼い頃から絵を描くことが好きでした。詳しくは覚えていませんが、幼稚園の頃から絵画教室に通っていました。知らず知らずのうちに芸術分野に触れることが多かったように思います。高校に入学し、進路の希望を出す時に芸術系に進もうと決めました。高校の先生から富山大学芸術文化学部の受験を候補として挙げていただきました。2年生の冬頃に、美術の先生から「富山大学を受けるなら、放課後デッサン練習に来て」と言われ、部活動とデッサン練習の両立を頑張りました。画塾ではなく高校内での指導のため、ライバルもおらず比較ができませんでした。不安はありましたが、先生のアドバイスを受け、自分でもどういうデッサンが評価されるかを考えながら練習を進めました。

デッサンは時間配分と質感で勝負

学校推薦型入試のデッサン方式で富山大学芸術文化学部を受験しました。その時は、3時間で3つのモチーフを描く課題でした。それぞれの質感の違いが出やすい配置にこだわり、細かいところは細かく描きつつも、色の濃淡で遠目で見ても映える絵に仕上がるよう意識しました。

常に評価される環境

富山大学芸術文化学部への進学が決まり、1年次は五福で教養科目とサークルで大学生らしい生活を経験しました。2年次に高岡に移り、専門的な授業が増えました。大学で学ぶ中で、自分に合う分野とそうでない分野がわかりました。絵を描くにしろ、デザインするにしろ、やっていて苦しい時や先生方の講評で厳しいことを言われる場面があります。その中で、ものづくりをする授業が一番楽しめました。「クラフトデザイン演習」という授業で、木工加工について学ぶ中、木のおもちゃを作りました。木工を扱うのは初めてでしたが、思ったよりうまくできました。木のおもちゃのデザインと制作を通じて、デザインの分野に進んでいきたいと思うようになりました。

富山マラソンの完走タオル制作

2年次から渡邉雅志先生の研究室に入り、活動しています。渡邉ゼミでは毎年、富山マラソンの関連グッズのデザインを担当しています。完走者タオル、ジョギングの部のタオル、参加者バッジ等のデザインを2年生の学生4人で担うことになりました。その中で、私は完走者タオルの色の設定を担当しました。富山マラソン10周年を記念して、コンセプトは「記憶のハーフトーン」としました。実際に立山連峰や朝日の写真を撮り、色を抽出することにこだわりました。タオルを複数枚つなげると稜線のように見えます。実際に富山マラソンのゴールで、自分たちの作ったものが完走者の手に渡るところを見て感激しました。「やってよかったな」と実感しました。

お世話になった高校の先生へ

高校2年生の時に先生から声をかけていただいていなければ、今この富山大学芸術文化学部にいなかったと思います。デッサンを教えていただいたり、進路の相談に乗っていただいたりと感謝の気持ちでいっぱいです。

Vol. 76

取材日：2026年1月22日